

## 1 産地の概要

<対象地域> 邑楽郡明和町  
 <対象品目> 水稲・麦・キャベツ(複合経営)  
 <産地の現状>

- ・明和町は、耕地の8割を水田が占める水稲と麦の二毛作地帯であるが、一戸当たりの耕地面積は1.6haと小さい。そのため、単位面積あたりの収益性の低い水稲と麦の専業では経営が成り立たず、兼業化が進んでいる。
- ・近年、地元企業の要請を受け、米麦農家が露地での業務用キャベツ生産を開始し、米麦とキャベツの複合経営を行う農家が増えている。
- ・米麦作においては収益性の向上、キャベツ栽培においては収穫作業の効率化・軽労化が課題となっている。
- ・また、農家の高齢化、担い手不足も進んでおり、地域の農業を守る後継者の育成は重要な課題であり、収益性の高い農業経営の実現が必要である。

## 2 検討体制

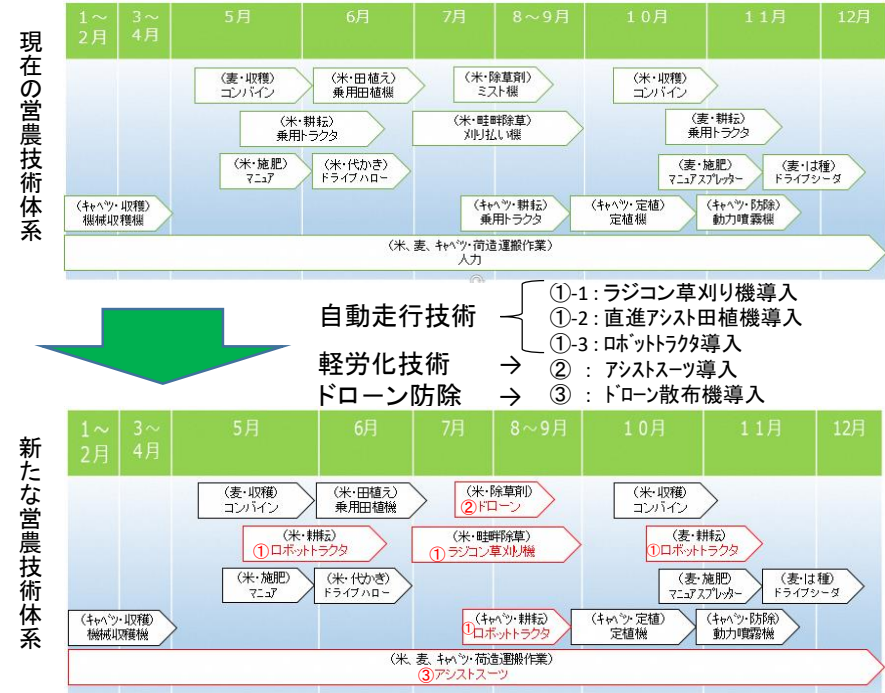
<明和町次世代につなぐ先端技術導入推進協議会構成員と役割>

- ・生産者・農業委員（役割：検証・地域への啓発）
- ・クボタアグリサービス(株)・ヤンマーアグリジャパン(株)・JA邑楽館林（役割：先端技術検証・データの提供）
- ・館林地区農業指導センター・東部地域研究センター（役割：技術導入の助言・指導）
- ・明和町（役割：検討会事務・先端技術調査・事業の周知・啓発）

## 3 新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

高齢者や女性、機械作業経験が不足した若い担い手でも、作業効率の向上が図れる最先端技術を導入し、収益性の高い「若者が憧れる農業」を目指す。



<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

- （麦作）耕耘作業 【現状】乗用トラクタ: 18分/10a → ロボットトラクタ: 12分/10a **約3割↓**  
 ※ロボットトラクタは2台を併用し、1人で操縦した場合
- （全作共通）荷造運搬作業 人力→アシストスーツ **過重労働が約35%低減**  
 ※アシストスーツ着用作業時のアンケート結果による

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>

取組主体	R2	R3	R4
館林地区農業指導センター	新営農技術体系の周知	新営農技術体系による連明・安全作業、栽培技術の普及	
JA邑楽館林・ベンター	新営農技術体系(機械導入等)による営農効果の試算		
東部農業事務所農業振興課 明和町役場	新営農技術体系の周知	新営農技術体系(機械導入等)に係る補助事業支援	



検討会の様子



ロボットトラクタ耕うん